No.16

令和６年６月市議会定例会

提　案　理　由　（要　旨）

６月市議会定例会を招集申し上げましたところ、議員皆様には、御健勝にて御参会いただき、当面する諸案件について御審議いただけますことは、市政進展にとりまして誠に喜ばしく、感謝を申し上げます。

初めに、去る５月２６日に東芝ブレイブルーパス東京とのプレーオフトーナメント決勝戦に臨んだ埼玉パナソニックワイルドナイツですが、残念ながら、王座奪還とはなりませんでした。

本市では、より多くの市民やファンの皆様の熱い「青援（せいえん）」を届けるため、昨年度よりもバスを増便して応援ツアーを実施し、当日は、市内外から多くの皆様に御参加いただくことができました。

試合会場には、５万6,000人を超える多くのラグビーファンが詰めかけ、最高の雰囲気の中でノーサイドの笛まで一進一退の攻防が繰り広げられました。後半には今季限りでの引退を表明した堀江選手と内田選手を投入し、最後まで猛攻を続けましたが、あと一歩のところで、その栄冠には手が届きませんでした。

最後まで諦めず、勝利を信じ前に進み続ける選手の姿に勇気と感動をもらうとともに、このゲームを最後に堀江選手、内田選手のフィールドでの雄姿を目にすることができなくなるかと思うと、とても寂しく残念な思いがいたします。

世界への扉を開き、日本ラグビーをけん引してこられた、両選手の活躍と功績に敬意を表するとともに、新たなフィールドでの更なる御活躍を祈念しております。

残念な結果となりましたが、これからも日本屈指のラグビーの強豪チームの本拠地であることを誇りに、市民、チーム、行政が一丸となってスクラムを組み、王座奪還に向けて、更なる躍進の後押しをしてまいりたいと考えております。

そして、県内外から応援に駆けつけてくださるファンの皆様にも、ラグビー観戦はもとより、本市で過ごす時間がより快適で充実したものとなるよう、クマぶらなどのコンテンツを有効に活用し、熊谷の魅力に触れていただくことで、交流人口や関係人口の増加にもつなげていきたいと考えております。

さて、４月末に民間の有識者らで構成される「人口戦略会議」において、全国の自治体の４割に当たる７４４自治体が２０２０年から２０５０年までの３０年間で、若年女性の人口が５０％以下に減少し、将来的に消滅する可能性があるとの報告書が公表されました。

本市は、この「消滅可能性自治体」には含まれておりませんでしたが、埼玉県内においても４分の１に当たる１６市町村が「消滅可能性自治体」に挙げられており、依然として、人口減少や少子化の流れに歯止めがかかっていない厳しい

現状が浮き彫りになったところです。

本市では、こうした人口減少に歯止めをかけ、将来にわたり活力ある地域を維持していくため、平成２７年度に「第１期熊谷市人口ビジョン・総合戦略」を策定し、その後、第２期総合戦略では、「交流・関係人口の創出・拡大」や「時代に合った地域づくりの実現」などの新たな視点を加え、あらゆる世代が暮らしやすく、バランスの取れた年齢構成による持続可能なまちづくりを進めるための様々な施策を積極的に行っているところです。

この第２期総合戦略につきましては、今年度、最終年度を迎え、これまでの取組の成果を検証するとともに、次期計画の策定を進めてまいります。日々の生活において満足度が高く、子育て世代等にとっても暮らしやすい魅力的なまちづくりを進め、市民の皆様が、本市で暮らすことに誇りを持つことができるよう、更なる見直しと充実を図り、切れ目のない実効性の高い施策となるよう取り組んでまいります。

また、人口減少対策を進める上では、単に「自治体間で人口を奪い合う」のではなく、それぞれの自治体が持つ役割や特性を活かし、互いに連携を図りながら、それぞれが発展を遂げていくことが肝要と考えております。

実現に向け動き出しました北部地域振興交流拠点施設や利根川新橋の整備は、自治体の相互連携を促進し、地域の魅力や利便性の向上を図る上で、本市はもとより、県北地域や

群馬県東毛地域の発展にも欠かすことのできない重要な施策であると考えております。

今後も引き続き、この地域をけん引していくという強い使命感を持ち、埼玉県を始め関係自治体とのより一層の連携を図りながら、着実に力強く事業を進めてまいりますので、議員皆様には格別なる御理解と御協力をお願い申し上げます。

それでは、今定例会に提案いたします議案につきまして、御説明申し上げます。

今回の補正予算でございますが、年度開始後、間もない時期でありますので、国の予算執行に伴うものなど、早急な対応が必要となりました事業につきまして、計上させていただきました。

初めに、歳出につきまして、主なものを御説明申し上げます。

民生費におきましては、国の「こども未来戦略」に基づき、児童手当の所得制限の撤廃や、高校生年代までの支給期間の延長など、制度が拡充されることに伴い、児童手当の支給に係る費用を追加し、より多くの子育て世帯への支援を行ってまいります。

衛生費におきましては、新型コロナウイルスワクチン接種の分類が、Ｂ類疾病の定期接種に変更されたことに伴い、６５歳以上の方に加え、６０歳から６４歳の方で、心臓や呼

吸器などの機能に障害がある方などを対象に、ワクチン接種を円滑に実施するための経費を追加するものでございます。

商工費におきましては、熊谷駅構内のびゅうプラザ跡地に、県北のみならず、秩父地域や群馬県東毛地域への周遊拠点として、観光情報の発信や特産品の販売などを行う観光案内所を新たに整備するとともに、熊谷市観光協会を移転することにより、観光やスポーツ観戦で訪れる方々へのおもてなしを充実してまいります。また、太田市・大泉町と合同で実施いたしました刀水橋花火大会について、今年度も引き続き開催し、都市間の連携を図ってまいります。

次に歳入でございますが、今回の補正の財源として、国・県支出金などの特定財源のほか、前年度繰越金を充てるものでございます。

以上が補正予算案の概要でございます。

続きまして、一般議案につきまして御説明を申し上げます。

「熊谷市子育て支援・保健拠点施設整備事業」におきまして、令和８年４月の供用開始に向け、整備を本格的に進めるための建設工事に係る工事請負契約の締結を行うための議案などを提案いたしております。

慎重審議の上、御可決賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明とさせていただきます。